

2024 年度

関西学院大学 ボランティア活動支援センター
ヒューマン・サービス支援室

Volunteer Activity Office "Human Service" Support Office



関西学院大学
KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

2024 年度

関西学院大学ボランティア活動支援センター

ヒューマン・サービス支援室 活動報告書

関西学院大学 ヒューマン・サービス支援室

■ はじめに

ボランティア活動支援センター長 挨拶	2
今津屋 直子	
ヒューマン・サービス支援室長 挨拶	3
関 嘉寛	
ボランティアコーディネーター 挨拶	4
岡 秀和、沖本 祐基	
ボランティアコーディネーター 挨拶	5
音川 真凜	
2024 年度学生コーディネーター代表 挨拶	6
西宮上ヶ原・西宮聖和キャンパス 佐藤 日和	
神戸三田キャンパス 小鹿 陽生、潮見 凜	

■ ヒューマン・サービス支援室

1. ヒューマン・サービス支援室とは	8
学内における位置づけ	
組織図	
中期目標	
2024 年度の取り組み	
2025 年度の計画	
2. ボランティアコーディネート	12
支援室の利用状況	
外部団体からの情報提供数	
3. 情報発信	14
ホームページ、SNS、リーフレット	
4. 災害支援・防災啓発	15
能登半島地震現地ボランティア 応募者・参加者人数／災害支援活動スケジュール	
能登半島地震募金活動 2024 年度入学式／第 1 回 能登半島地震現地ボランティア	
第 2 回 能登半島地震現地ボランティア／第 3 回 能登半島地震現地ボランティア	
第 4 回 能登半島地震現地ボランティア／第 5 回能登半島地震現地ボランティア	
災害ボランティア講座／避難所運営訓練	
2024 年度能登半島地震現地ボランティア報告会／能登半島地震現地ボランティア参加者の集い	
能登半島地震支援募金活動 2024 年度卒業式／現地ボランティア参加者感想	
5. 地域連携	26
三田地域連携（さんちきれん）／「あかしあっ子食堂」一般学生参加型ボランティア活動の開催	
「三田市の困りごとを解決する仲間求む！」ワークショップ／甲東エココミュニティ会議との交流会	

6. 関西学院大学ボランティアネットワーク (KG-VNET)	28
神戸三田 KG-VNET 交流会／西宮上ヶ原 KG-VNET 交流会	
新入生の心をつかむ！新メンバー募集ってどうするの？	

■ 学生コーディネーター

1. 学生コーディネーター（学生 CO）とは	32
概要	
学生 CO 年間目標	
2. 学生コーディネーターの活動	33
所属人数	
年間活動スケジュール	
春ボラ	
START UP KSC! 『はじめようボランティア & SDGs! 合同説明会・相談コーナー』	
KG LIFE 『はじめようボランティア & SDGs! 合同説明会・相談コーナー』	
ボランティア EXPO	
ボランティアツアー	
出張ボラセン	
ボランティア week	
関西学院大学 × 関西大学 梅田クリーン大作戦	
学生 CO 総会	
3. 研修	40
基礎研修	
夏の研修合宿	
春の研修合宿	
4. 来年度に向けて	42
2025 年度学生コーディネーター代表 挨拶	
西宮上ヶ原・西宮聖和キャンパス 江口 幸佑	
神戸三田キャンパス 加藤 塔香	

■ 記録事項

取材記録	44
ボランティア活動支援センター規程	50
ヒューマン・サービス支援室規程	51
ボランティア活動支援センター名簿	52
ヒューマン・サービス支援室名簿	52
2024 年度 学生コーディネーター代表部名簿	52

はじめに



ボランティア活動支援センター長

今津屋 直子（教育学部教授・副学長）



平素より、ボランティア活動支援センターならびにヒューマン・サービス支援室の活動をお支えいただいている関係者の皆さまには、心より感謝申し上げます。

2024年度の主な活動の一つは、能登半島地震被災地でのボランティア活動でした。本学では、5月より、被災地支援のためのボランティア活動を5回実施いたしました。災害ボランティアというと、瓦礫や資材の撤去というイメージがありますが、本学の場合、仮設住宅への戸別訪問、交流イベントの開催、子どもの遊び場づくりなどの活動が中心です。活動先は、石川県七尾市を主な活動地域としております。七尾市へ継続して訪れることで、地域の方々と学生たち、そして関西学院との関係が徐々に築かれています。各活動の後には、振り返りのための報告会を開催し次の活動へ繋ぎました。年度末には各活動を総括する意味で、現地活動に参加した学生以外にも学内外からの参加を募り、活動報告会を開催しました。体験を他者に伝えることで思いや考えを整理し、経験に変えていく貴重な機会になったのではないのでしょうか。

ヒューマン・サービス支援室では、他にも様々なボランティア活動とつなぐ取り組みを行っています。また、学内・学外のボランティア団体との連携にも力を入れています。9月に実施した災害ボランティア講座では、自分自身が被災した際の身の安全を確保する方法なども体験できる内容で構成しました。この企画は、日頃よりボランティア活動の指導などお世話になっている西宮市社会福祉協議会ボランティアセンターやNPO 法人日本災害救援ボランティアネットワークの皆さまのご協力によって実現いたしました。

当支援室で紹介しているボランティア活動には色々な種類や方法があり、企画の実現に向けては様々な準備や技能が求められるため、学内、学外の関係者の皆さまにご協力、ご指導を賜りながら進めております。今後も引き続き、ボランティア活動支援センターならびにヒューマン・サービス支援室の活動への応援をよろしくお願いいたします。

ヒューマン・サービス支援室長

関 嘉寛 (社会学部教授)



私たち関西学院大学ボランティア活動支援センター ヒューマン・サービス支援室（以下、支援室）の2024年度の活動報告書が完成しました。8年目を迎え、新たな体制の下、1年間、充実した活動をおこなってきました。その記録をご笑覧いただければ幸いです。

2024年度は、4年間支援室を支えてくれたコーディネーターが退職し、新たに1名の専従コーディネーターを迎え入れました。うれしいことに学生時代は、学生コーディネーターとして支援室と一緒に活動してくれていた方です。これで学生コーディネーターから専従コーディネーターになる方が2名となりました。私たちの活動の特徴である支援室の学生コーディネーターへの積極的な関わりが、実を結んだ結果だと思っています。

このような活動の持続性は、8年目を迎えた支援室にとっては、学生コーディネーターの視点より一層意識するきっかけにもなりました。学生の状況は年々変化するもので、そのような変化に対応した運営もまた支援室の発展には必要だということが専従コーディネーターとの話し合いの中で実感されました。

また、活動面での特徴としては、2024年1月1日に発生した能登半島地震の現地ボランティアを実施しました。単に現地に行ってボランティア活動するだけでなく、被災者の支援を通じて大学生が学ぶべきことを考えながら実施しました。さまざまな方々のご支援のもと、計5回実施することができました。本報告書では、その成果もお伝えしています。

能登半島地震の現地ボランティアの活動だけではなく、継続しておこなってきたコーディネート活動、学生への告知活動・イベントや大学周辺地域との連携なども発展していき、「忙しい」1年となりました。さまざまな活動の報告になりますが、ぜひみなさんと共有しながら、学生たちに学び多き学生生活を提供する方法をみなさんと考えていけたらと思っています。ぜひ、ご意見や感想などもいただければ幸いです。これからも、みなさまのますますのご支援・ご指導のほどよろしくお願いします。

末筆になりますが、みなさまのますますのご発展を祈念します。

ボランティアコーディネーター

岡 秀和



2024年度は、2024年1月1日に発生した能登半島地震の支援を考える毎日でした。学生たちと共にできることを考えた結果、関西学院大学らしく、現地の方々との交流を通じて双方向のつながりをつくっていききたいという考えに至りました。NPO法人日本災害救援ボランティアネットワークの協力のもと、石川県七尾市の仮設住宅やコミュニティセンターでの現地ボランティアを5回、のべ72名の学生と行うことができました。活動を重ねる中で、「関学大生が来てくれるのが楽しみ」「次はいつ来るの？」など、訪問を楽しみにしていただけになりました。

現地では新町町会や中島地区コミュニティセンター豊川分館の方々をはじめ、関係各所の方々が受け入れてくださり、継続的な活動につながりました。様々なご支援を本当にありがとうございました。

回を重ねるにつれ、継続して活動に参加する学生も増え、2025年3月に実施した「現地ボランティア報告会」は10名以上の学生が運営に関わりました。また学内外での発信に取り組むほか、外部団体を通じて現地へ訪れる学生もいました。ヒューマン・サービス支援室として、学生の関心を広げ、関心を持ち続けることの重要性を知る入口となっていると感じるので、2025年度も継続してプログラムを実施したいと考えています。

引き続き、ご支援・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

ボランティアコーディネーター

沖本 祐基



ボランティア活動支援センターならびにヒューマン・サービス支援室が開室してから、8年が経ちました。私は2024年度に引き続き神戸三田キャンパスを担当し、学生コーディネーター（学生CO）やKG-VNET加入団体と一緒に、さまざまなイベントや活動のきっかけづくりに取り組んできました。

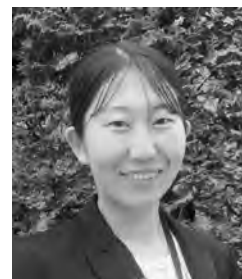
たとえば、毎年開催しているボランティアEXPOには、KG-VNET加入団体だけでなく、三田市社会福祉協議会や神戸市地域協働局にも出展いただき、多くの学生の参加につながりました。また、学内だけでなく、三田地域の子ども食堂に学生と一緒に参加するツアーや、イベントの広報協力、KG-VNET加入団体と社会福祉協議会が協力した学外イベントなど、さまざまな活動を実施することができました。

神戸三田キャンパスでの活動は、学生COやボランティア団体・サークルの学生たちと一緒に、大きく前に進めたのではないかと思います。

こうした活動が実現できたのは、学生の積極的な参加と、地域や関係者の皆さまのご協力のおかげです。心から感謝申し上げます。2025年度も、地域と学生が互いにかかわり合いながら、活動の広がりや深まりを目指していききたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

ボランティアコーディネーター

音川 真凜



ヒューマン・サービス支援室が開室して8年目の2024年度より、私はコーディネーターとして着任し、西宮上ヶ原・西宮聖和キャンパスを担当しました。

2024年度の来室は2023年度に比べ、延べ397名増えました。特に外部団体の来室や能登半島地震現地ボランティア関連の活動に関わる学生の来室が多く、学内・学外問わずに支援室に関わってくださる方が増えた1年間でした。多様な方が関わってくださることで、支援室は新たな交流が生まれる場所になり、活動も広がっていると実感しました。

また、学生COが新たな試みとして災害支援・切手整理・清掃・エココミュニティなどテーマを設定して取り組む活動を行いました。私たちボランティアコーディネーターとしては、学生COの関心に応じて専門性のある外部団体と学生COがつながるきっかけを作り、サポートしました。学内での企画に留まらず、学外で活動する機会をつくれたことで、参加する学生たちがより当事者意識をもってボランティアに取り組むきっかけができたと感じます。

2025年度もより多くの学生がボランティア活動へ参加するきっかけができるように、学生COと連携して取り組んでいきたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

2024 年度学生コーディネーター 西宮上ヶ原・西宮聖和代表

佐藤 日和 社会学部 3 年



2024 年度は全体で 100 名近くが学生 CO に所属し、メンバーのボランティアへの関心が一層高まった年になったように感じます。また、体制も一部変更し、挑戦の年でもありました。

上ヶ原・聖和キャンパスでは秋学期より「チャレンジ企画」を実施し、新メンバーを中心に 4 つのグループ（災害支援・切手整理・清掃・エココミュニティ）に分かれ様々なボランティアに触れる機会をつくりました。また、企画経験を積むことで、今後の学生 CO の活動につなげることもできました。

また、一般学生向けの「ボラツアー」を復活させたことで、ボランティアへのハードルを下げ、気軽に一步を踏み出せるような工夫を取り入れることで、一般学生の参加促進にもつながりました。

団体の規模が大きくなった分、メンバー一人ひとりが学生 CO の活動に積極的に関われる環境を整えることは簡単なことではありませんでしたが、メンバーの高い意欲や、教職員の皆様・外部の方々からの支えにより、学生 CO として大きな成長を実感できる 1 年となりました。

2024 年度以降も「関西学院大学のボランティア活性化」を目指し、あらゆるボランティアと人とのつながりを大切に活動してまいります。

最後にはなりましたが、学生 CO のメンバー、学生 CO の活動を支えてくださったすべての皆様に感謝申し上げます。今後も学生 CO をよろしくお願いいたします。

2024 年度学生コーディネーター 神戸三田共同代表

小鹿 陽生 理学部 3 年

潮見 凜 総合政策学部 2 年



2024 年度は、KG-VNET 加入団体や三田市内で活動されているボランティア団体の皆さまとの繋がりを、より一層深めることができた 1 年となりました。そうしたご縁をもとに、市内で活動されている団体の方をキャンパスにお招きする企画を実施したほか、地域の子ども向けイベントに学生 CO として出店するなど、活動の幅を広げることができました。私たち自身も様々な活動に足を運び、多くの方々と交流する中で、改めてボランティア活動の持つ魅力を再認識できたと感じています。

また、三田学生 CO 独自の Instagram を新設するなど、広報面でも新たな取り組みをスタートさせた 1 年でもありました。日々の活動に真摯に向き合うと共に、新しい挑戦にも積極的に取り組む中で、少しずつ神戸三田キャンパスならではの個性を出せていると感じます。今後も三田学生 CO の柔軟な発想力と行動力を活かしながら、「関西学院大学のボランティア活性化」に向けて、引き続き尽力してまいります。

最後に、日頃より私たちの活動を温かく支えてくださっているすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

ヒューマン・サービス支援室



1. ヒューマン・サービス支援室とは

学内における位置づけ

関西学院大学ボランティア活動支援センター、ヒューマン・サービス支援室（以下、支援室）は、大学内におけるボランティアセンターの役割を果たす部署として2016年4月に設置されました。

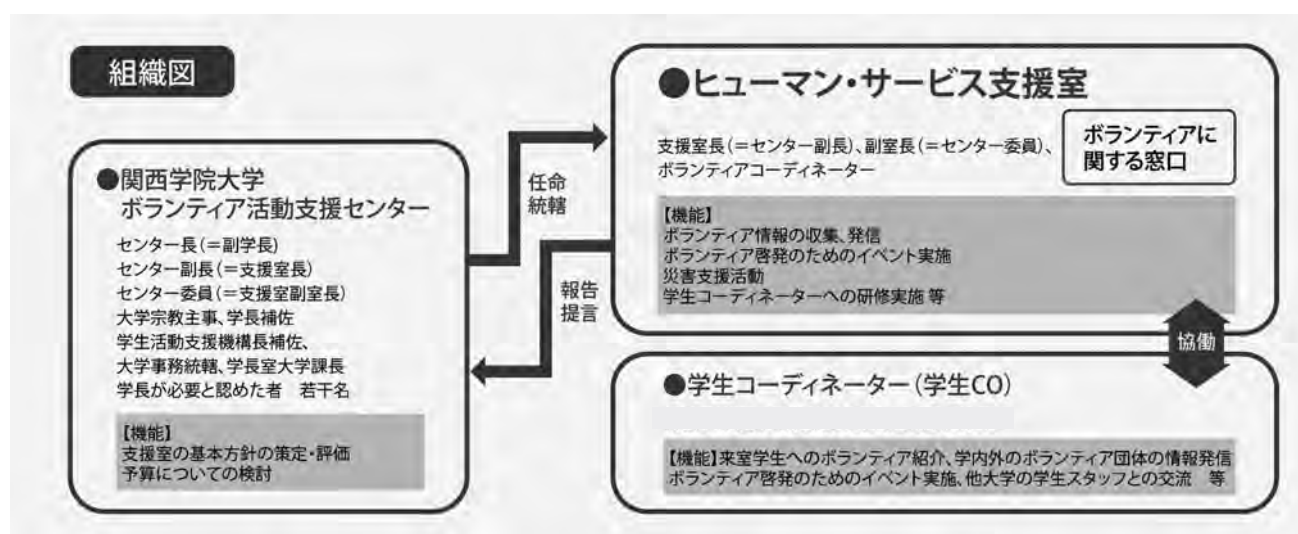
支援室の母体になったのは、1995年阪神・淡路大震災後に設立された関西学院ヒューマンサービスセンター（HSC）です。HSCでは、教職員と学生が協力して、さまざまなボランティアコーディネートを行っていました。

しかし、HSCは、関西学院大学内におけるボランティア活動の組織的な支援という点において課題を抱えていました。このような課題に対応するために、何年間にわたる学内協議の末に、大学内に位置づけられた組織として支援室が開設されました。

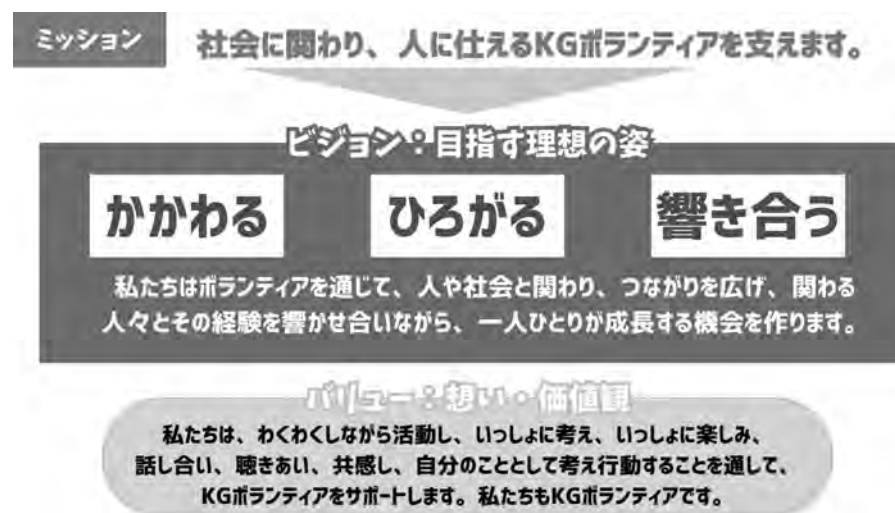
支援室は、関西学院大学のスクールモットーである“Mastery for Service”を体現するボランティア活動を、さらに広げ、多くの学生が参加できる環境作りをミッションとしています。そのために、ボランティア情報の発信や共有を中心に、ボランティアをしたい学生とボランティアをしてほしいニーズをつなげていく活動を行っています。その過程では、活動している人びと、活動したい学生たちの自主性を尊重することを大切にしています。

また災害時、被災地への継続的な支援も支援室に課せられたミッションです。

関西学院大学では、関東大震災時もボランティア活動を行った記録があるほど、災害救援において伝統があります。この伝統を受け継ぎ、災害が多発する現代社会において、被災者や被災地に寄り添う活動を組織的に行いたいと考えています。



中期目標



〈ミッション：存在意義や使命〉

社会とは、地域や課題に限定せず、多様な場や人、つながりをイメージしています。社会は誰かに定義されるものではなく、自分自身で捉えるという意味合いも含んでいます。

仕えるとは、キリスト教のリーダーシップ精神を表す「サーバント・リーダーシップ」を示します。

また、関西学院大学および学生たちは、伝統的にも、積極的にボランティアに取り組んできました。元気に明るく素直に、いきいきと活動したり、考えるよりもまずは身体が動く、そんなことが私たちがイメージする“KGボランティア”です。KGボランティアは正解がなく、ひとりひとりが動きながら考えるものでもあると思います。そんなひとりひとりのKGボランティアを支えていくことが私たちの使命です。

〈ビジョン：目指す理想の姿〉

私たちは、人と社会にかかわり、つながる中で生かされています。個人化が進んだ時代においてはそれが見えにくく、つくりにくくなっています。つながりは、ボランティアによる人や社会とのちょっとしたかかわりの中からつくることができます。

かかわる機会と場としてボランティアを通してつながりがひろがることで、人や社会と響き合い、より豊かな可能性に開かれた生活、地域、社会と一緒につくっていくことができると信じています。このような思いを持って、いろいろなことを吸収できる大学時代を過ごすみなさんにボランティアの機会や場を提供することが、私たちが目指す理想の姿です。

2024 年度の取り組み

設立から9年目に入る2024年度は、下記の取り組みを行いました。

重点事項	取り組み内容	活動内容
広報の充実	広報資料の見直し	紙媒体を中心とした広報だけでなく、SNSやHPを積極的に用いて広報をおこないました。またリーフレットもリニューアルしました。
	学生・教職員からの認知度の向上	学内情報システムであるkwicによる活動紹介などをおこないました。能登半島地震現地ボランティア活動へのkwicの情報から学生や教職員が応募してきました。
講座・研修、計画策定	学生COの研修プログラムの確立	学生COの基礎的スキルの修得・スキルアップの他に、チームビルディングとしての合宿をおこないました。また、2月にはふり返りの合宿をおこない、学生COのステップアップの機会を提供しました。
学内連携	他部署との定期的な情報交換	特別な機会を設けませんでした。個別案件などで関連部署との連携を図りました。
地域連携	地域と協働したコーディネーションの展開	継続してKSCでは、社会福祉協議会や神戸市と連携して地域での活動をおこないました。また、NUCでも社会福祉協議会を通じて地域との関わりを深めていきました。
災害の推進	継続的な支援の検討(募金活動、報告会など)	能登半島地震の支援のための、学生ボランティアとともに、募金活動を入学式でおこないました。また、現地ボランティア活動の報告会もおこないました。
	支援室主催の現地ボランティア活動の検討	計5回の現地活動をおこないました。主に七尾市中島町の被災地域での支援活動をおこないました。その際、西宮市社会福祉協議会やNPOと連携しながら、現地のニーズに合った活動をおこないました。
KSCでの活動	活動場所の充実	KSCでの活動がより円滑におこなわれるよう検討しました。現状維持ではありましたが、課題の共有などを関係部署とおこないました。
	神戸三田キャンパス事務局との連携	教室・会場を借りたり、イベントの告知などに関して協力を仰ぎました。
NSCでの活動	活動場所の検討	担当副室長と専従CO、学生が定期的に打ち合わせをおこない、今後の活動方針について検討しました。活動場所と活動内容はつながっているため、まずは、活動内容をさらに検討する必要が確認されました。
	キャンパス内での認知度の向上	ボランティアEXPOの独自開催などを通じて、支援室の認知度向上をはかりましたが、学部特性等を考慮した活動が必要であることがより実感されました。
運営体制の強化	専従コーディネーターのステップアップの明確化	ボランティアコーディネーター検定を受けたり、他大学のボランティアコーディネーターと交流などしたりして、ステップアップをめざしました。
	教員のかかわり深化	会議などの課題の共有を通じて、教員と専従コーディネーター・事務局との情報共有を務めました。また教員は担当をそれぞれもち、それぞれ専従コーディネーターや学生コーディネーターとの話し合いを進める中で、関係性を深めていきました。

2025 年度の計画

最重点事項	取り組み内容
運営体制の強化	西宮上ヶ原キャンパスでの災害・防災に関するコーディネートの方針性の確定と実施
	神戸三田キャンパスでの地域連携に関するコーディネートの方針性の確定と実施
	西宮聖和キャンパスでの活動拠点作り
中期目標	学生向け講座の検討
	災害対応の手順の確定

重点事項	取り組み内容
広報	広報媒体の検討と運用
学生COとの関係	学生COの自立的活動のサポート
	学生CO向け講座の検討・実施
能登半島地震現地支援	現地ボランティア活動の実施と参加学生のオーガナイズ

2. ボランティアコーディネート

支援室の利用状況

【西宮上ヶ原キャンパス】

月別来室者のべ数

(人)

月	ボランティア紹介	ボランティア団体相談	その他	合計
4月	28	5	34	67
5月	22	1	41	64
6月	9	2	40	51
7月	43	4	94	141
8月	6	1	12	19
9月	5	2	51	58
10月	15	6	30	51
11月	13	16	65	94
12月	10	8	49	67
1月	6	2	26	34
2月	2	0	39	41
3月	1	1	50	52
合計	160	48	531	739

【神戸三田キャンパス】

月別来室者のべ数

(人)

月	開室日数	ボランティア紹介	ボランティア団体相談	その他	合計
4月	14	11	0	12	23
5月	21	2	1	15	18
6月	17	6	0	36	42
7月	16	2	0	9	11
9月	5	0	1	4	5
10月	19	5	0	2	7
11月	17	1	4	6	11
12月	15	0	3	19	22
1月	12	1	0	2	3
合計	136	28	9	105	142

【ボランティア紹介内訳（Welcomeシート記入者分）】

※Welcomeシートとは、支援室に来室した学生に記入してもらっているシートで、興味があるボランティアのジャンルを✓してもらうことでボランティア紹介に活用しています。

(人)

キャンパス	西宮上ヶ原								西宮聖和	神戸三田							その他	合計
学年/学部	神	文	社会	法	経済	商	人間福祉	国際	教育	総合政策	理	工	生命環境	建築	理工			
1年生	2	9	6	14	10	2	15	4	6	5	1	0	1	0				75
2年生	1	2	6	4	3	7	4	2	5	2	1	0	1	1				39
3年生	0	4	0	10	6	1	9	0	7	0	0	0	0	0				37
4年生	0	1	1	0	1	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0			12
研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0
その他																	11	11
合計	1	16	13	28	20	10	28	6	27	7	2	0	2	1	0		11	174

※Welcomeシートを記入していない学生や、複数回来室した学生は1枚しかシートを記入していないケースがあるため、来室者のべ数と利用者内訳で人数が違ってきます。

※学生COは来室者数としてカウントをしていません。

※その他は上記学部以外の研究科、科目等履修、教職員等です。

外部団体からの情報提供数

支援室では、提供していただいたボランティア情報を21種類のジャンルに分けて紹介しています。ジャンルは、1つの情報に対して最大3つまで選択しています。

ジャンルごとの情報件数 (件)

子ども・青少年	子どもたち、中高生などに関わる活動（キャンプ、子ども食堂、子どもたちの工作サポートなど）	70
教育	主に教科指導（勉強）に関わる活動（学校内での児童・生徒支援事業、塾での勉強支援、学習支援活動など）	23
福祉（障がい）	障がいがある方の余暇活動の同行、支援施設での活動など	25
福祉（高齢）	高齢者と関わる活動（介護施設での活動など）	13
医療・保健	献血、病院でのボランティア活動、心に病を持つ人への支援活動など	26
国際	国内外問わず、海外の方と関わる活動（海外での支援活動、国内での日本語教育支援活動など）	20
環境	環境保護・保全に関わる活動（植林活動、ごみゼロ運動、清掃活動、水質保全活動など）	35
動物	動物保護、生態系の再生・保全活動など	3
芸術・文化	美術館・博物館での活動、音楽祭のサポート、地域文化の保全活動など	12
スポーツ	スポーツに関わる活動	12
災害支援	防災活動、災害時の救援・支援活動、災害記念式典の運営など	33
まちづくり	地域住民と関わる活動、地域PR活動、まちあるきの運営など	41
祭り・イベント	お祭りや行事の運営、お手伝いなど	43
人権	難民・難病がある方の支援や権利擁護活動など	13
スタディツアー	参加者と現地の人々の相互理解や体験学習を目的とする活動（平和学習、文化体験など）	13
オンライン	zoomなどのwebシステムを利用して在宅で参加できる活動など	20
講座・セミナー	講演会、勉強会、ワークショップなど	46
寄付・募金	団体への支援金、災害時の義援金など	9
KG-VNET	本学の学生が所属している、もしくは活動やミーティング等を行っている団体	4
SDGs	SDGsをテーマに取り扱っている活動・団体	8
その他	上記にあてはまらないボランティア活動	32
総計		501

月別情報件数 (件)

4月	38	春学期合計 121
5月	36	
6月	22	
7月	20	
8月	5	
9月	7	秋学期合計 109
10月	28	
11月	14	
12月	23	
1月	17	
2月	4	
3月	16	
総計	230	

3. 情報発信

ヒューマン・サービス支援室では、ボランティアに関する啓発イベントの参加者募集や日常活動の発信のため、ホームページや学内ポータル（kwic）、SNSなどを通じて情報発信をしています。個別のボランティア情報については学内のチラシラックへの配架や掲示板での掲示、支援室での紹介（コーディネート）を通じて発信を行っています。

また、リーフレットもリニューアルしました。

HP

SNS (X、Instagram、Facebook、YouTube)



ヒューマン・サービス支援室のリーフレット

ボランティア活動支援センター
Volunteer Activity Support Center "Human Service" Support Office

2016年4月1日、関西学院大学におけるボランティアセンター「ヒューマン・サービス支援室」が開設しました。支援室では、ボランティアをしたい学生に対してはボランティア情報や活動の紹介と、ボランティアをしている学生や学内団体に対しては更なる発展のサポートをします。

ミッション：存在意義と使命
社会に関わり
人に仕えるKGボランティアを支えます。

ビジョン：目指す理想の姿
かかわる ひろがる 響き合う

私たちはボランティアを通じて、人や社会と関わり、つながりを広げ、関わる人々とその経験を分かち合いながら、一人ひとりが成長する機会を作ります。

バリュー：想い・価値観
私たちは、わくわくしながら活動し、いっしょに考え、いっしょに楽しみ、話し合い、働き合い、共感し、自分のこととして考え行動することを通して、KGボランティアをサポートします。私たちもKGボランティアです。

ボランティアを募集したいと思ったら
「学生のボランティアを募集したい！」
「ボランティア活動について相談してみたい」
などありましたら、ぜひ支援室までご相談ください。
右側の連絡先よりお問い合わせください

アクセス

西宮上ヶ原キャンパス
NISHINOMIYA UEGAHARA CAMPUS

〒662-8501
兵庫県西宮市上ヶ原1番町1-155
開室時間
平日 10:30～16:50
(11:30～12:30は休憩時間になり、窓口業務を休止します。)
土日、祝日、夏季・冬季の休館期間は終日閉室

神戸三田キャンパス
KOBE SANDA CAMPUS

〒659-1330
兵庫県三田市学園上ヶ原1番
開室時間
平日 10:30～17:00
(11:30～12:30は休憩時間になり、窓口業務を休止します。)
土日、祝日、夏季・冬季の休館期間は終日閉室

お問い合わせ
電話 0798-54-6061
メール kg.hss.o.info@kwansei.ac.jp
HPからも情報発信中！

関西学院大学
ボランティア活動支援センター
ヒューマン・サービス
支 援 室

Volunteer Activity Support Center
"Human Service" Support Office

4. 災害支援・防災啓発

令和6年能登半島地震の発生に際して、被災地外から継続的に関心を寄せていく必要があると考え、関心を醸成するためにまずは2023年度卒業式、2024年度入学式での募金活動を行いました。その後、現地での活動を模索していたところ、連携団体のNPO法人日本災害救援ボランティアネットワークが石川県七尾市で活動をはじめていたため、連携して現地活動を行うことになりました。ヒューマン・サービス支援室としては熊本地震現地ボランティア（2016～2019年度）の経験も踏まえて目的を設定し、2024年度内で5回の活動を行うことができました。また、現地の状況を発信し学内外で関心を広げていくために、2025年3月には「現地ボランティア報告会」を開催したほか、学内での「災害ボランティア講座」や地域での「避難所運営訓練」など能登の活動経験を踏まえて学生たちとともに企画を行いました。

〈能登半島地震現地ボランティア〉

(1) 目的

- ① 現地の人的な不足を補うとともに、阪神・淡路大震災の被災地である本学の学生が現地に行くことで、現地に元気と希望を届け、不安になっている被災者の立ち直りに力を与える。
- ② 何かしたいという学生の思いを行動につなげる機会とする。また、災害支援の知識・理解を深めるとともに、現場でしか感じられない住民の方々の状況を知り、他の学生に波及する自主的な活動への第1歩とする。

(2) 活動概要

場所：石川県七尾市

①中島地区第1団地（仮設住宅）／新町地域

②新町会館（自治会の集会所）

宿泊：国立能登青少年交流の家

内容：①仮設住宅への戸別訪問 ③地域住民とのワークショップ 地域行事への参加 など

連携：NPO法人日本災害救援ボランティアネットワーク、のと復興人足隊

西宮市社会福祉協議会、豊川地域協議会

協力：株式会社 高山堂

(3) 参加者・応募者数

累計参加者数（第1回～第5回）：学生 延べ72名、教員3名

累計応募者数（第1回～第5回）：学生 延べ151名

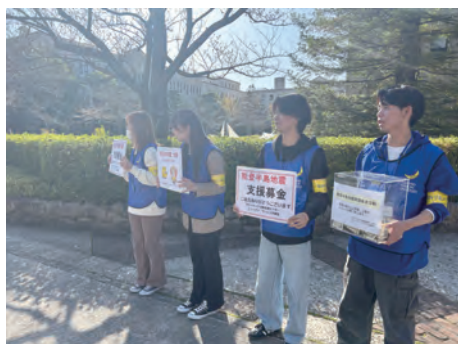
参加者	西宮上ヶ原									西宮聖和	神戸三田							短大	合計
学年/学部	神	文	社会	法	経済	商	人間福祉	国際	経営戦略	教育	総合政策	理	工	生命環境	建築	理工			
1年生	0	2	2	1	3	0	1	4	0	3	0	0	0	2	0			4	22
2年生	0	1	4	2	2	0	4	1	0	2	6	0	0	0	0			0	22
3年生	2	0	4	1	0	3	4	0	0	3	3	0	0	0	0				20
4年生	0	1	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1		6	
M1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0		2	
合計	2	4	10	5	5	5	11	5	1	8	9	0	0	2	0	1		4	72
各キャンパス合計	48									8	12							4	

応募者	西宮上ヶ原									西宮聖和	神戸三田							短大	合計
学年/学部	神	文	社会	法	経済	商	人間福祉	国際	経営戦略	教育	総合政策	理	工	生命環境	建築	理工			
1年生	0	4	2	7	7	0	6	5	0	5	1	0	0	4	2			5	48
2年生	0	1	8	7	4	2	8	3	0	3	8	0	0	0	0			0	44
3年生	2	2	7	4	2	3	9	2	0	5	4	0	0	0	0				40
4年生	0	3	1	0	1	3	3	0	0	1	1	0	0	0	0	1		14	
M1	1	0	0	1	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0		5	
合計	3	10	18	19	14	8	28	10	1	14	14	0	0	4	2	1		5	151
各キャンパス合計	111									14	21							5	

災害支援活動スケジュール

日 程	内 容	場 所
2024年		
4月1日（月）～2日（火）	能登半島地震支援募金活動	西宮上ヶ原キャンパス正門前、銀座通り
5月15日（水）～16日（木）	能登半島現地視察	石川県穴水町、珠洲市、七尾市、輪島市
5月25日（土）～26日（日）	第1回能登半島地震現地ボランティア	石川県七尾市
6月22日（土）～23日（日）	第2回能登半島地震現地ボランティア	石川県七尾市
7月8日（月）	能登半島現地視察	石川県穴水町、七尾市
8月6日（火）～8日（木）	第3回能登半島地震現地ボランティア	石川県七尾市
9月18日（水）、19日（木）	災害ボランティア講座	オンライン（Zoom）、西宮上ヶ原キャンパス社会学部棟202、203教室
10月11日（金）～13日（日）	第4回能登半島地震現地ボランティア	石川県七尾市
11月24日（日）	避難所運営訓練	西宮市立夙川小学校
11月30日（土）	能登半島地震現地ボランティア参加者の集い	西宮上ヶ原キャンパス G号館206教室
2025年		
1月13日（月・祝）	避難所運営訓練	西宮市立高須西小学校
1月27日（月）～28日（火）	能登半島現地視察	石川県穴水町、七尾市
2月14日（金）～16日（日）	第5回能登半島地震現地ボランティア	石川県七尾市
3月4日（火）	2024年度能登半島地震現地ボランティア報告会	西宮上ヶ原キャンパス G号館202教室
3月17日（月）～18日（火）	能登半島地震支援募金活動	西宮上ヶ原キャンパス正門前、銀座通り

能登半島地震支援募金活動 2024 年度入学式



日 程：2024年4月1日(月)～2日(火)
 場 所：西宮上ヶ原キャンパス正門前、銀座通り
 参加者数：延べ36名
 内 容：募金の呼びかけ
 目 的：(1) 2024年1月に発生した令和6年能登半島地震における被災者・被災地支援のため
 (2) 学生の支援活動への関わり、関心を醸成するため

募 金 額：合計348,128円

送 付 先：日本赤十字社

NPO法人日本災害救援ボランティアネットワーク (NVNAD)

第1回 能登半島地震現地ボランティア



日 程：2024年5月25日(土)～26日(日)
 参加者数：学生12名(応募者数：31名)、教員1名
 活動内容：仮設訪問、交流イベント(お茶会・大学生と遊ぼう!)、穴水町視察
 事後活動：各キャンパスでの報告会
 (参加者数：4回合計 約30名)

第2回 能登半島地震現地ボランティア



日 程：2024年6月22日(土)～23日(日)

参加者数：学生12名（応募者数：43名）、教員2名

活動内容：仮設訪問、交流イベント（子ども遊び、茶話会など）、穴水町視察

事後活動：各キャンパスでのポスター制作・展示

第3回 能登半島地震現地ボランティア



日 程：2024年8月6日(火)～8日(木)

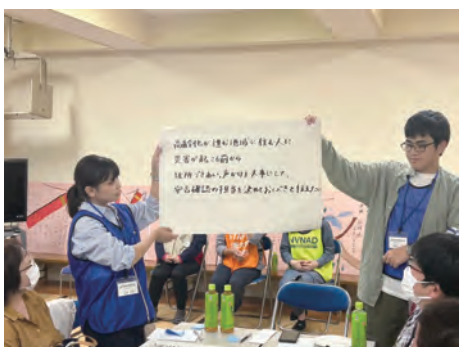
参加者数：学生14名（応募者数：26名）

活動内容：仮設訪問

交流イベント（写真たてづくり、流しそうめんなど）、輪島市視察

事後活動：「災害ボランティア体験講座」での活動報告

第4回 能登半島地震現地ボランティア



日 程：2024年10月11日(金)～13日(日)

参加者数：学生15名（応募者数：19名）

活動内容：仮設訪問、交流イベント（ハロウィン装飾づくり、ビンゴ大会など）

豊川地区の方々との交流会

「今だから考えるべき将来の起こりうる災害に備えて」

事後活動：「能登半島地震現地ボランティア参加者の集い」での活動報告

第5回 能登半島地震現地ボランティア



日 程：2025年2月14日(金)～16日(日)

参加者数：学生19名（応募者数：32名）

活動内容：仮設訪問、交流イベント（お菓子デコレーション・ハーバリウム・バレンタイン交流会など）

豊川地区の方々との交流会

「豊川地域三世代交流会」「今だから考えるべき将来の起こりうる災害に備えて」

事後活動：活動報告会の開催、SNSでの活動報告、引継ぎ資料の作成

災害ボランティア講座



- 目 的：**・現地活動を想定した「準備」や「心構え」を学ぶ
・被災時、支援を必要とする人の立場になって「考えることができる」学生の養成
・被災時、被災後に「行動できる」学生の養成

〈基礎〉

日 程：2024年9月18日(水)13:00～14:00

場 所：Zoomオンライン開催

参加者数：7名

内 容：現地でのボランティアについて（準備物、心構えなど）、身の回りで災害が起きることをイメージしよう（避難所、在宅避難、仮設住宅について等）

〈体験〉

日 程：2024年9月19日(木)10:00～16:30

場 所：西宮上ヶ原キャンパス 社会学部棟202、203教室

参加者数：18名（一般学生6名、第3回能登参加者12名）

内 容：大学で地震が起こったら！？（備蓄倉庫見学、AED & 学内の危険な個所を探そう！WS）、備蓄食を食べよう！、交流ボランティアを知る！体験する！（現地ボランティア活動報告、被災地での交流ボランティア体験、避難者役・ボランティア役体験ワークショップ、明日からの行動宣言 等）

共 催：西宮市社会福祉協議会ボランティアセンター
NPO法人日本災害救援ボランティアネットワーク (NVNAD)

避難所運営訓練



日 程：①2024年11月24日(日)9:00～13:00

②2025年1月13日(月・祝)9:00～13:00

場 所：①西宮市立夙川小学校 体育館

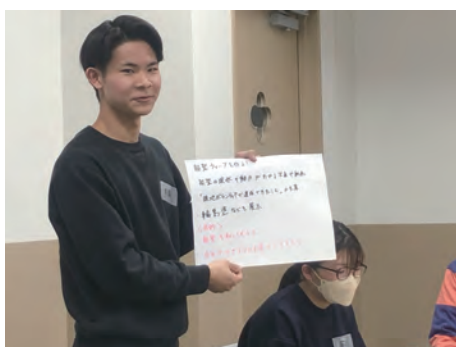
②西宮市立高須西小学校 体育館

参加者数：〈運営〉①学生13名 ②学生12名

〈来場〉①② 約150名

共 催：NPO法人日本災害救援ボランティアネットワーク (NVNAD)

能登半島地震現地ボランティア参加者の集い



日 程：2024年11月30日(土) 15:00～17:00

場 所：西宮上ヶ原キャンパス G号館206教室

参加者数：合計28名（学生19名、教員1名、ヒューマン・サービス支援室教職員4名

西宮市社会福祉協議2名、NPO法人日本災害救援ボランティアネットワーク2名）

内 容：(1) 第4回能登半島地震現地ボランティア活動報告

(2) グループワーク（能登半島への関心を持ってもらうために私たちができることは何か？、KG能登半島地震現地ボランティアの終着点はとなると良いか？）

目 的：能登半島（現地）への関心を持続し、自分たちができることを共に考え続ける

2024 年度能登半島地震現地ボランティア報告会



日 程：2025年3月4日(火) 13:00～16:00

場 所：西宮上ヶ原キャンパスG号館202号教室

参加者数：59名

内 容：現地ボランティア活動概要・報告、パネルディスカッション「学生による災害ボランティアの意義」、グループでの意見交換会「能登半島地震から考える 私たちにできることは？」、活動展示コーナー

目 的：2024年度に関西学院大学として行ってきた能登半島地震への支援活動の目的や意義を振り返り、発信する。2025年度に向けての成果と課題を共有する

能登半島地震支援募金活動 2024 年度卒業式



日 程：2025年3月17日(月) 18日(火)

場 所：西宮上ヶ原キャンパス正門前、銀座通り

参加者数：延べ17名

内 容：募金の呼びかけ

目 的：(1)2024年1月に発生した令和6年能登半島地震
における被災者・被災地支援のため
(2)学生の支援活動への関わり、関心を

募 金 額：合計207,581円

送 付 先：日本赤十字社

NPO法人日本災害救援ボランティアネットワー
ク (NVNAD)

■ 現地ボランティア参加者感想

第1回 能登半島地震現地ボランティア活動参加学生

社会学部2年生 **庄司 蓮 さん**

私が今回の活動に参加した経緯にはたくさんの偶然がありました。まず、なんとなく参加した能登半島地震の募金活動に始まり、その募金活動の振り返り会でお会いした NPO 法人日本災害救援ボランティアネットワーク (NVNAD) の寺本さんから、現地活動の話をしていただきました。私は、自分のような大した苦勞をしていない未熟者が現地に向かったところで迷惑だろうと参加には消極的でしたが、寺本さんのお話を聞くうちに、自分でも出来ることはあるかもしれないと思うようになり、思い切って今回の現地への活動に応募しました。そして運よく現地メンバーに当選して、能登に行くことが出来ました。

現地で印象的だったことはまだまだ復興には程遠い実情です。道路の修復は不十分で、崩れ落ちているところや陥没しているところ、通れてもガタガタな道もありました。そんな道をいく中で私は車酔いになりました。バスの中で覚えた吐き気は、現地の人々が非日常的な空間にいるという現実を私の身体に教え込んでくれたように思います。また、物質的な復興と同様に、被災された方々の心のケアも足りていないと思い知らされました。私達が訪問した仮設住宅では、将来の不安や苦しみを感じている方が多く住んでいました。仮に家や道路が直ってもそのような不安や苦しみが解消されない限りは復興とはいえず、復興の難しさを感じさせられました。

第2回 能登半島地震現地ボランティア活動参加学生

総合政策学部3年生 **足立 里歩 さん**

仮設住宅の訪問や交流イベントを通じて、被災地の現状を目の当たりにし、ボランティアとしての意義と難しさを深く感じました。初日は仮設住宅に住む方々を戸別訪問し、物資の提供や日常生活の困りごとをお伺いしました。訪問中、多くの方々から感謝の言葉を頂戴し、温かく迎え入れていただいたことが印象的でした。しかし、一部の家庭では支援を断られることもあり、ボランティアとしての関わり方の難しさを痛感しました。また、個々の状況に応じた対応が必要であることを学びました。2日目は、新町会館で交流イベントを開催しました。1日目の訪問では被災者の厳しい状況を目の当たりにしましたが、2日目のイベントでは皆さんが楽しんでくださり、笑顔や心の安らぎを見せてくれる場面が多くありました。特に、普段は夫の介護に専念している方が息抜きとして参加してくださったことが印象的でした。お話を伺う中で、移動販売の減少や買い物の困難な状況など、生活の問題に直面している現実を知り、さらなる支援の必要性を感じました。

今回のボランティア活動を通して感じたことは、支援活動が一方的ではなく、双方向のコミュニケーションであることの重要性です。訪問やイベントを通じて温かい言葉や感謝の気持ちを受け取ることで、自分自身も多くのエネルギーを得ることができました。この活動を通じて、コミュニケーションの重要性和相手の背景を考慮することの大切さを再認識しました。

第3回 能登半島地震現地ボランティア活動参加学生

神学部3年生 **大西 夏葵 さん**

初めて参加しましたが、第1回・第2回の成果がしっかりと出ていたと感じました。訪れる人々に「のと復興人足隊のメンバーとして来た、関西学院大学の学生です。」と名乗ると、覚えてくださっている方が多く、快くお話をしていただくことができました。住宅訪問をするまでとても緊張していたのですが、みなさん温かく迎えてくださったので、安心しました。二日目の新町会館では、当時の震災状況の話をしてくださる方もいて、当たり前のことではありますが、「被災者」とひとくくりで見るのではなく、その人一人一人をしっかりとみて、対話を重ねることで、より人柄などを知ることが大切だと改めて実感しました。被災者というカテゴリで最初はどうしても捉えがちな部分がありましたが、二日三日と経つうちに、少し遠い親戚の方々と話しているように軽く錯覚するぐらいには、距離を縮めることができたので良かったです。私たちのような外部の者が、七尾市の人たちにとってどれくらい関わることができているのかはつかみかねる部分もありましたが、新しい人として関わり話すことで、その人自身も知らなかった思いや考えを整理できるきっかけになれたらいいなと感じました。今回訪問したことで、私自身、身を引き締めてもらえたので、本当に良い経験をさせてもらったと感じています。目に見えない部分に関わり、良い方向に持って行こうとすることは簡単なことではないですが、こうやって少しずつ関係構築をすることが大切だと感じました。

第4回 能登半島地震現地ボランティア活動参加学生

人間福祉学部2年生 **西本 和芳 さん**

私がこの活動に参加するのは前回に引き続き2回目でしたが、多くの新たな学びを得ることができました。私は将棋部に所属しているので、現地の方々と将棋を通してたくさんコミュニケーションをとることができました。「昔はよく将棋を指したけど最近はほとんど指さない。」という方とも、最初は雑談しながらだったのがだんだん真剣になり、対局後には笑顔でお互いを称えあったのは楽しい思い出です。仮設住宅に入居してから知り合ったという男性3人組と、将棋の指し手に対してあーでもないこーでもないと議論したのもまた楽しかったです。その男性のうち1人は「囲碁が好きだが周りに打てる人がおらず、あるボランティアの方が仮設住宅を一軒一軒回って探してくれたが見つからなかった。」とおっしゃっていて、次に参加する際には囲碁を覚えていこうと思いました。

「信頼とは予測可能性であり、コミュニケーションとはお互いが共有するものをつくること。」とは引率の関先生のお言葉ですが、現地の方々との関わりについて考えさせられる言葉だと感じました。というのも、新町会館での交流イベントに来てくださった方は私の話によく応じてくれる方が多いのですが、私が前回できなかった仮設住宅の訪問活動ではそうではありませんでした。もちろんそれぞれのお家にその時の事情があるとは思いますが、遠慮がちな方が多かったです。私たちはよそ者ですから警戒されて当然です。だからこそ、継続的な活動が重要だと2回目の参加にして改めて感じました。

第5回 能登半島地震現地ボランティア活動参加学生

教育学部1年生 上村 美希 さん

私たちの訪れた地域では、屋根にブルーシートがかかっていたり窓が割れているような建物もまだありましたが、大抵の道路などは綺麗に整備されているように見え、物資などが不足している状態でもありませんでした。ではなぜまだボランティア活動を行うのか、それは被災地の方々とコミュニケーションをとって、お話することを通して元気を届けるためだと説明会でお話がありました。そんなことでボランティアと言えるのだろうか、せっかく石川まで来たのに役に立てずに終わってしまうのではないかと、始まってからも不安はありましたが、現地で過ごし、子どもからお年寄りまで沢山の方とお話していくことで、寄り添うボランティアの意味が自分なりに理解できるようになりました。震災から1年経って街の見た目が元通りになったからといって、人々の生活や心が元通りになった訳ではありません。だからこそ、現地に行って明るく挨拶をし、お話を耳を傾けることが、私たち大学生に今できる最大限の支援なのだと感じました。

また、ボランティア活動は私たちが与える一方ではないということも、新たな発見となりました。震災を経験した方々の生の声を聞いて、学べることは沢山ありましたし、挨拶を返してもらっただけでこんなに嬉しい気持ちになるのかと、コミュニケーションの大切さも再確認できました。更に、能登について学び考えたことで、自分の住む地域のことについても考えられるようになりました。震災を乗り越えるためには、人と人との結びつきが何より大切だと知ったことで、自分の身に震災が起こった時どう行動するか、周囲の人とどう関わっていくのかという所まで考えられるようになったことが、このボランティアに参加した意義だと思います。

5. 地域連携

西宮上ヶ原・西宮聖和キャンパスでは、西宮市社会福祉協議会・段上地区青少年愛護協議会・東筆振興町会と連携して、ボランティアツアー（P35）を実施しました。また、初めての試みとして学生COが甲東エココミュニティ会議の皆さんと連携し、古着のリメイク会などを通じて交流を行いました。ヒューマン・サービス支援室として、この過程で学生COと地域団体が直接つながることができるようにサポートをしてきました。

神戸三田キャンパスでは、昨年度に引き続き、三田市社会福祉協議会と三田市役所の移住定住促進課と連携し、三田地域連携（さんちきれん）として定期的に学生CO・教職員と懇談の機会を設けることができ、神戸三田キャンパスボランティアEXPO（P34）に社協ブースを出展、三田版のボランティア見学ツアーを実施しました。その他にも、三田バルなどの地域イベントの広報協力を学生COと共に実施するKG-VNET加入団体と地域団体をつなぐなど、様々に連携を深め、学生と地域活動がつながるきっかけを作ることができました。また、神戸市北区社会福祉協議会と初めて意見交換会を行い、新たなつながりをつくることもできました。

今後も、地域と学生が双方向にかかわりあい、つながりあう関係性をつなぎ、活動の発展を目指していきたいと思います。

三田地域連携（さんちきれん）

日 程：2024年10月2日（水）9：30～11：00
場 所：関西学院大学 神戸三田キャンパス
内 容：地域活動の報告、各組織の活動の共有等
目 的：地域活動の状況や学生のニーズなど直接地域の方と学生が話をして具体的に連携できることを模索する

「あかしあっ子食堂」一般学生参加型ボランティア活動の開催

日 程：①2024年10月25日（金）17：00～20：00
 ②2024年11月22日（金）17：00～20：00
場 所：三田市立あかしあ台小学校
参 加 者：延べ5名
内 容：三田市社会福祉協議会と連携し、一般学生向けの子ども食堂ボランティアツアーを実施

「三田市の困りごとを解決する仲間求む！」ワークショップ



日 程：2024年4月15日(月)15：20～17：00

場 所：神戸三田キャンパス アカデミックコモンズ1階
オレンジゾーン

参加者数：7名

内 容：新入生や在校生の皆さんが「三田市の困りごと」
をタネに、わいわい語りながら 地域でできるこ
とを、夢を膨らませて考えてみよう！

目 的：①学生がまちづくりやボランティアに参加する
きっかけづくり
②学生と地域の人たちの横のつながりをつくる
③学生に+αの知識を知ってもらう

甲東エココミュニティ会議との交流会



日 時：2024年12月21日(土)10：00～12：00

場 所：つどい場CO・KO

参加者数：12名（甲東エココミュニティ会議5名、学生CO
6名、職員1名）

内 容：クリスマスリース作り

目 的：①学生COのエココミュニティチームと甲東エコ
コミュニティ会議のメンバーがお互いのこと
を知る（地域の取組やそれに対する思いを聞
いたり、自分たちの関心を伝えたりする）
②リユースへの意識を高める

6. 関西学院大学ボランティアネットワーク (KG-VNET)

関西学院大学のボランティアの活性化のために、関学大生がボランティア団体に所属し、主体的に活動することへの支援はとても重要なことだと考えています。そのため、ヒューマン・サービス支援室がとりまとめを行い「関西学院大学ボランティアネットワーク (KG-VNET)」をつくっています。ヒューマン・サービス支援室は加入団体の広報協力や活動運営の相談に乗る他、連携してイベントを開催する、団体間での交流会を実施するなど様々な形でサポートをしたいと思います。

今年度は、春ボラやボランティア EXPO (P36 参照) などの学生 CO 企画を通じて各団体の新メンバー勧誘をサポートしたほか、募集の工夫を考えるためのワークショップを実施しました。

2024 年度加入団体 (33 団体)

○学生連盟加盟団体 (1 団体)

関西学院大学 宗教総部

○大学登録団体 (9 団体)

アイセック関西学院大学委員会

Eco-Habitat 関西学院

SSV 関西学院

学習ボランティアサークル ALIVE

CLUB GEORDIE

K.G.BrainHumanity

聖和キャンパス学生 YMCA

乳幼児の遊び研究サークル 子どもの友

ほっとコミュニティ

○学内団体 (16 団体)

ivusa 兵庫西宮クラブ

ええやんハウス部

関西学院大学災害コミュニティつむぎ

クマの食堂

CORs

J-FUN ユース K.G.

Switch My Angle

そらまめ

国内ボランティアサークルつなぐ

日本手話サークルはなまる

HeForShe 関西学院大学

Bridge for Children, KGU

ほーみーりんく

ボランティアサークル Bell

TRY (外国人労働者・難民と共に歩む会)

結 (MusuVi)

○学外団体 (7 団体)

関関 COLORS

神戸 YMCA 三宮リーダー会・余島リーダー会

西宮地区 BBS 会

PENS

ボランティア・フレンド・メディア神戸 (VFM 神戸)

Re.colab KOBE

一般社団法人 new-look

神戸三田 KG-VNET 交流会

- 日 程**：①2024年4月11日(木)・12日(金)
 ②2024年11月7日(木) (1)12:50～13:30 (2)18:50～21:00
- 場 所**：神戸三田キャンパス 第二厚生棟1階学生ホール
- 内 容**：イベント企画を共同で行うことに対し、その協力を仰ぐために定期的な連絡、及び企画趣旨の説明会を兼ねた交流会を実施

西宮上ヶ原 KG-VNET 交流会

- 日 程**：2024年12月21日(土)15:10～16:50
- 場 所**：西宮上ヶ原キャンパス H号館303教室
- 参 加**：7団体12名
- 内 容**："マシュマロ"というツールを用いた相談会、ネットワーキングタイムなどを通じて、加入団体同士がお互いに悩みを共有し合える関係性づくりを念頭に置いた交流会を実施

新入生の心をつかむ！新メンバー募集ってどうするの？



- 日 程**：2月26日(木)13:00～15:30
- 場 所**：西宮上ヶ原キャンパスH号館302教室
- 参加者数**：19人（9団体）
- 講 師**：川中大輔氏（シチズンシップ共同企画代表/龍谷大学准教授）
- 内 容**：・「呼び込み」×「巻き込み」の考え方
 ・団体内のメンバーの熱量を高くもってもらうためには 等
- 目 的**：新入生に自分たちの団体や活動の魅力を伝えられるかを考える
 新メンバー加入後、チームとして一緒に活動していくうえでのポイントを考える

学生コーディネーター



1. 学生コーディネーター（学生 CO）とは

学生 CO は教職員と協働し、「関西学院大学のボランティアの活性化」を目的として活動している団体です。学生 CO の活動は大きく 2 つあります。

①ルーティン活動

支援室を訪れた学生とお話しながらその人に合ったボランティア情報の紹介（コーディネーション）をします。学生 CO それぞれが授業の空き時間を使って実施しており、コーディネーションの他にも、ボランティア情報の整理やイベント準備なども行います。

②イベントの企画・実施

関学生にとってボランティアがより身近なものとなるように、様々なイベントを企画・実施しています。イベントを通じて学内でのボランティアの啓発やボランティアを始めるきっかけ作りなどを目的として楽しいイベントを企画しています。

【学生 CO 年間目標】

2024 年度の年間目標は「CORE ～ Collaboration Relation Enjoy～」と設定し、この目標に対し 3 つの意味を込めました。

- ①「Collaboration」関学のボランティア活性化に向けて、学生 CO 内外を巻き込んでコラボ（協働）する
- ②「Relation」地域やほかの団体と関係を持ち続け、つながりを広げる
- ③「Enjoy」学生 CO 自身がボランティアや日々の活動を楽しみ、関学生にもボランティアの楽しさを知ってもらう

これら 3 つを目標に関学ボランティアを広める中心（CORE）として活動する。

学生 CO 外では社会福祉協議会との地域のつながりや、外部の方にご協力いただいたき、企画を行いました。学生 CO 内では、それぞれの部署・実行委員などが連携しあい、お互いに協力し合って活動を行うことができ、結果昨年度の「#みんなでコラボラ」からより目標を達成することができたと感じています。

「Collaboration」から、多くの方々とのかわりを持つことによって、前年度よりもつながりが深まったように思います。特に、今年度から KG-VNET 部を新しく新設したことにより、改めて KG-VNET と学生 CO の関係性を考える機会となりました。今後はよりつながりを濃くしていけると考えています。

今年度は、合宿やイベントなど学生 CO の活動が充実したものになりました。学生 CO 自身が楽しめたかは、それぞれ異なってくると思いますが、ボラツアーなど一般学生と学生 CO が一緒にボランティアに参加したこともあり、少しでも楽しさを知ってもらう機会を作ることができました。

2. 学生コーディネーターの活動

所属人数 (2024年 6月12日時点)

(人)

キャンパス	西宮上ケ原								西宮聖和	神戸三田						合計
学年/学部	神	文	社会	法	経済	商	人間福祉	国際	教育	総合政策	理	工	生命環境	建築	理工	
1年生	0	4	11	4	4	4	3	0	2	2	1	1	6	1		43
2年生	0	1	2	6	1	0	3	0	1	3	1	3	2	0		23
3年生	0	0	3	6	3	3	2	0	0	2	1	0	0	1		21
4年生	0	0	2	0	0	0	0	1	0	6	0	0	0	1	1	11
各学部合計	0	5	18	16	8	7	8	1	3	13	3	4	8	3	1	98
各キャンパス合計	63								3	32						

年間活動スケジュール

日 程	内 容	場 所・ツール
2024 年		
4 月初旬	新入生オリエンテーション登壇、「春ボラ」配布	西宮上ケ原キャンパス、神戸三田キャンパス、西宮聖和キャンパス 各教室等
4 月 4 日(木)	START UP KSC！出展 『はじめようボランティア & SDGs！～ボランティア説明会 & 何でも相談コーナー～』	神戸三田キャンパス VIII(8)号館204教室
4 月 5 日(金)	KG LIFE出展 『はじめようボランティア & SDGs！～ボランティア説明会 & 何でも相談コーナー～』	西宮上ケ原キャンパス B号館103教室
4月11日(木)・12日(金)	神戸三田キャンパス KG-VNET交流会	神戸三田キャンパス 第二厚生棟 1 階学生ホール
4月16日(火)～17日(水)	ボランティアEXPO開催	西宮上ケ原キャンパス 学生会館旧館 2階ホール
23日(火)～24日(水)		神戸三田キャンパス 第二厚生棟 2階学生ラウンジ
26日(金)		西宮聖和キャンパス 2号館 2階204・206教室
4月～5月	学生CO新歓	対面/オンライン (Zoom)
5月18日(土)	基礎研修	西宮上ケ原キャンパス 新学生会館新館会議室 9
6月13日(木)・14日(金)	神戸三田キャンパス KG-VNET交流会	神戸三田キャンパス 第二厚生棟 1 階学生ロビー
6月24日(月)・26日(水)・28日(金)	神戸三田出張ボランティアセンター (春学期)	神戸三田キャンパス アカデミックcommonsシアター
6月～7月	ボランティア見学ツアー	西宮市/三田市周辺
7月 1 日(月)～5 日(金)	西宮上ケ原出張ボランティアセンター (春学期)	西宮上ケ原キャンパス 学生会館旧館 1 階ロビー
7月10日(水)	関西学院初等部 福祉委員会との切手整理ボランティア	宝塚キャンパス (関西学院初等部) 3 階第一理科室
8月 4 日(日)	ふらっとサマーカーニバルの広報協力	三田市フラワータウン駅前商業施設「サンフラワー」
9月14日(土)～16日(月・祝)	学生CO夏の研修合宿	関西学院千刈キャンブ
9月18日(水)	「KAGAVOCO EXPO」の出展参加	大阪公立大学 I-siteなんば
10月 1 日(火)～11日(金)	三田パルの広報チームへの参加	三田市内
10月 2 日(水)	「第 8 回三田地域連携 (さんちぎれん)」	神戸三田キャンパス II 号館210教室
10月16日(水)	関西学院初等部 福祉委員会との切手整理ボランティア	宝塚キャンパス (関西学院初等部) 3 階第一理科室
10月25日(金)	「あかしあっ子食堂」一般学生参加型ツアーの開催	三田市立あかしあ台小学校
11月 7 日(木)	神戸三田キャンパス KG-VNET交流会	神戸三田キャンパス 第二厚生棟 1 階学生ホール
11月11日(月)～15日(金)	西宮上ケ原出張ボラセン (秋学期) 神戸三田出張ボラセン (秋学期)	西宮上ケ原キャンパス 学生会館旧館 1 階ロビー 神戸三田キャンパス アカデミックcommons 1 階プレゼンテーションルーム(1)(2)・シアター
11月22日(金)	「あかしあっ子食堂」一般学生参加型ツアーの開催	三田市立あかしあ台小学校
11月24日(日)	関西学院大学×関西大学 梅田クリーン大作戦	関西大学梅田キャンパス周辺
11月30日(土)	関学生が行く!! 香櫨園浜清掃	西宮市立夙川小学校 体育館
12月 2 日(月)～6 日(金)	ボランティアweek 『VolReal～ボランティアの日常をあなたと～』	西宮上ケ原キャンパス構内 神戸三田キャンパス構内 西宮聖和キャンパス構内
12月14日(土)	学生CO総会	西宮上ケ原キャンパス 新学生会館会議室 9
12月21日(土)	西宮上ケ原キャンパス KG-VNET交流会 甲東エココミュニティ会議との交流会	西宮上ケ原キャンパス H号館303教室 つどい場CO・KO
2025 年		
1月13日(月・祝)	高須西小学校での避難所運営訓練	西宮市立高須西小学校 体育館
3月10日(月)～11日(火)	学生CO春の研修合宿	関西学院千刈キャンブ

活動報告

春ボラ

- 掲 載：**新入生へ配布
kwic（学内ポータル）にてデジタルブックを公開
- 様 式：**PDF42ページ（A4判）
印刷部数：6500部
- 内 容：**ヒューマン・サービス支援室を含め、関学生が所属するボランティア団体（上ヶ原/三田：4団体、上ヶ原：7団体、聖和：2団体、三田：8団体、その他：5団体）の活動内容、EXPOの情報などを掲載した「春のボランティア情報誌」を作成
- 目 的：**①自分に合ったボランティア団体を探す手助け
②新しい挑戦の選択肢の中にボランティアを入れてもらう
③関学生のボランティアとヒューマン・サービス支援室及び学生COを結びつける

掲載団体：ヒューマン・サービス支援室、学生CO、その他25団体

- 学生連盟加盟団体（1団体）
 - ・ 宗教総部
- 大学登録団体（8団体）
 - ・ Eco-Habitat関西学院
 - ・ SSV関西学院
 - ・ 学習ボランティアサークルALIVE
 - ・ CLUB GEORDIE
 - ・ K.G.BrainHumanity
 - ・ 聖和キャンパス学生YMCA
 - ・ 乳幼児の遊び研究サークル 子どもの友
 - ・ ほっとコミュニティ
- 学内団体（11団体）
 - ・ ivusa兵庫西宮クラブ
 - ・ 関西学院大学災害コミュニティつむぎ
 - ・ 国内ボランティアサークルつなぐ
 - ・ Switch My Angle
 - ・ そらまめ
 - ・ TRY（外国人労働者・難民と共に歩む会）
 - ・ 日本手話サークルはなまる
 - ・ HeForShe関西学院大学
 - ・ Bridge for Children, KGU
 - ・ ほーみーりんく
 - ・ ボランティアサークルBell
- 学外団体（5団体）
 - ・ 関関COLORS
 - ・ 西宮地区BBS会
 - ・ ボランティア・フレンド・メディア神戸（VFM神戸）
 - ・ PENS
 - ・ Re.colab KOBE



START UP KSC ! 『はじめようボランティア & SDGs ! 合同説明会・相談コーナー』



日 程：2024年4月4日(木)

① 9 : 00 ~ 10 : 00 ② 14 : 00 ~ 15 : 00

場 所：神戸三田キャンパス VIII(8)号館204教室

参加者数：合計52名 (①27名/②25名)

内 容：・ヒューマン・サービス支援室の紹介
・活動の注意点
・学生CO企画コーナー

目 的：①新入生にボランティアの魅力や、多様な活動があることを知ってもらう
②新入生に学生COの雰囲気や活動の楽しさを伝える
③新入生が「ボランティアは自分にも出来るんだ!」と気付いてもらう

KG LIFE 『はじめようボランティア & SDGs ! 合同説明会・相談コーナー』



日 程：2024年4月5日(金)

① 10 : 30 ~ 11 : 00 ② 14 : 30 ~ 15 : 00

場 所：西宮上ヶ原キャンパス B号館103教室

参加者数：延べ180名 (①50名/②130名)

内 容：・ボランティア情報チラシ閲覧コーナーの設置
・ヒューマン・サービス支援室の紹介
・ボランティア活動についての相談対応

目 的：①新入生にボランティアの魅力や、多様な活動があることを知ってもらう
②大学生活の中にボランティア活動という選択肢を持ってもらう
③ヒューマン・サービス支援室を知ってもらい活用してもらう

ボランティア EXPO

日 程：①2024年4月16日(火)～17日(水)10:30～18:00
②2024年4月23日(火)～24日(水)10:00～18:00
③2024年4月26日(金)10:30～18:00

場 所：①西宮上ヶ原キャンパス 学生会館旧館2階ホール
②神戸三田キャンパス 第二厚生棟2階学生ラウンジ
③西宮聖和キャンパス 2号館2階204・206教室

参加者数 (延べ)：上ヶ原 265名、三田 137名、聖和 7名

内 容：毎年開催している関学大生が所属するボランティア団体の合同説明会
来場した学生は、自分の興味のある団体のブースを回り、先輩から直接活動内容などの話を聞くことができる

目 的：「ちょっと新しいことに挑戦してみたいな」「ボランティアに興味があるけど、どうしたらいいかわからない…」と思っている学生の背中を押し、ボランティア団体への所属という選択肢を提示する
会場内では、明るく楽しい雰囲気づくりを心掛け、満足してもらってEXPOで見つけた新しい情報(ボランティア・団体)との出会いにワクワクしてもらうことを目指す

出展団体：ヒューマン・サービス支援室 学生CO、その他27団体

○学生連盟登録団体(1団体)
宗教総部

○大学登録団体(8団体)
アイセック 関西学院大学
Eco-Habitat 関西学院
SSV 関西学院
学習ボランティアサークルALIVE
CLUB GEORDIE
K.G.Brain Humanity
乳幼児の遊び研究サークル 子どもの友
ほっとコミュニティ

○学内団体(12団体)
ivusa 兵庫西宮クラブ
関西学院大学災害コミュニティ つむぎ
Switch My Angle
そらまめ

TRY～外国人労働者・難民と共に歩む会～
日本手話サークルはなまる
HeForShe 関西学院大学
Bridge for Children, KGU
ほーみーりんく
ボランティアサークルBell
結 (MusuVi)
CIEC

○学外団体(6団体)
関関COLORS
西宮地区BBS会
PENS
Re.colab KOBE
神戸市地域協働局
三田市社会福祉協議会



ボランティアツアー



- 日 程：**2024年8月2日(金)～9月19日(木)
- 場 所：**西宮市内、大阪市内の15の活動先
- 内 容：**ボランティアに関心はあるが、1人で参加するには不安な学生を対象に、学生COと一緒に活動先に行き、ボランティアを行うイベント
- 目 的：**
- ＜一般学生＞
 - ①参加者のボランティア参加のハードルを下げ、初めてボランティアする人にボランティアについて知ってもらう。
 - ②このボラツアーを通して、一般学生にもヒューマン・サービス支援室や学生COの存在を広める。
 - ＜学生CO＞
 - ①学生COのボランティア経験の一つにする。
 - ②ボラツアーで参加したボランティア経験をコーディネートにつなげる。
- 協 力：**・西宮市社会福祉協議会
・まちづくり工房

出張ボラセン



- 日 程：**①2024年6月24日(月)・26日(水)・28日(金)
②2024年7月1日(月)～5日(金)
③④2024年11月11日(月)～15日(金)
- 場 所：**①神戸三田キャンパス アカデミックコモンズ1階 シアタールーム
②③西宮上ヶ原キャンパス 学生会館旧館1階 ロビー (ポケットママ前)
④神戸三田キャンパス アカデミックコモンズ1階 プレゼンテーションルーム(1)(2)・シアター
- 来場者数：**①24名 ②61名 ③16名 ④32名
- 内 容：**ボランティア紹介、相談会
ボランティアチラシ特集コーナーの設置 など
- 目 的：**・支援室の認知度を上げる
・支援室が学生主体の相談しやすい空間であることを感じてもらう
・相談者の悩みや疑問を解決して、ボランティア参加の後押しをする

ボランティア week

日 程：2024年12月2日(月)～12月6日(金)

場 所：西宮上ヶ原、西宮聖和、神戸三田各キャンパス

参加人数：①10名 ②2名 ③6名 ⑤2名 ⑥4名 ⑧2名 ⑨2名 ⑪2名 ⑭2名 ⑮4名
※⑦、⑩、⑫は一般学生0名（学生COのみ実施）

内 容：「Vol Real. ～ボランティアの日常」というをあなたと～」

キャッチコピーのもと、下記の企画を実施

西宮上ヶ原キャンパス

- ①切手整理
- ②エコキャップアート
- ③能登半島へのプレゼント製作
- ④展示

神戸三田キャンパス

- ⑤点字体験
- ⑥防災食体験
- ⑦車いす体験
- ⑧ボッチャ体験
- ⑨三田市の良いところを考えよう
- ⑩防災クラフト
- ⑪災害ボランティア講座
- ⑫避難所運営ゲーム（HUG）体験
- ⑬パネル展示～あなたのキッカケはどこから？～

西宮聖和キャンパス

- ⑭学外ボランティア体験（クマの学食）
- ⑮学内ボランティア体験（切手整理）
- ⑯展示

目 的：関学生がボランティアに対してのイメージがあまり湧いていないことを解消するために、一週間を通して、ボランティアに実際に行った人の感想や雰囲気を伝え（知ってもらい）、ボランティアに参加しやすい環境を作る



関西学院大学 × 関西大学 梅田クリーン大作戦



日 程：2024年11月24日(日) 9：30～12：00

場 所：関西大学梅田キャンパス周辺

参加者数：22名（学生CO 7名、一般学生 5名、関西大学
スタッフ 5名、関西大学学生 5名）

内 容：関西大学の学生と清掃活動を通し交流を行う

目 的：体育会の関関戦においても関わりのある関西大
学と交流し、協力して清掃活動を行うことで、
両大学の体育会以外の学生も交流するきっかけ
を作る。また、両大学のキャンパスがある大阪
梅田駅周辺の環境美化に努めるとともに、環境
問題に対する意識向上に努める

学生 CO 総会



日 程：2024年12月14日(土) 10：00～18：00

場 所：西宮上ヶ原キャンパス 新学生会館会議室 9

参加者数：学生CO 67名

内 容：・アイスブレイク
・1年間の活動報告会（部署・実行委員等振り
返り）
・年間目標（CORE）の振り返り
・ワークショップ「いろいろな人の1年間の活
動を聞いてみよう！」
・ワークショップ「自分の強みを学生COの活
動に活かそう！」
・次期体制報告、年間目標決め

目 的：学生CO全体で1年間の成果や課題を確認し、
来年度の活動について考える

3. 研修

基礎研修



- 日 程**：2024年5月18日(土)10:00～18:10
- 場 所**：西宮上ヶ原キャンパス 新学生会館会議室9
- 参加者数**：学生CO 39名
- 内 容**：
・アイスブレイク
・ボランティアとは？
・ヒューマン・サービス支援室と学生コーディネーターの歴史と役割
・窓口コーディネーションについて
・学生COの役割、意識すべきポイント
- 目 的**：新たに入会した学生COを対象とした新人研修。上回生とともにボランティアコーディネーターの重要性と基本的な知識及び支援室との関係など基本的な事柄を理解する
また、他者との協働のために必要なこと、自分ができることが何かを主体的に考え、多様性を理解し相手を尊重したうえで対話ができるようになる

夏の研修合宿



- 日 程**：2024年9月14日(土)10:00～
9月16日(月・祝)16:30
- 場 所**：関西学院大学 千刈キャンプ
- 加 者 数**：44名（1年生20名、2年生12名、3年生9名、4年生3名）
＊1泊2日、日帰りだけの参加者も含む
- 内 容**：
・レクリエーション
・春学期の活動の振り返り
・地域活動と学生ボランティアをつなぐコーディネーターは君だ！（ワークショップ）
・バスは待ってくれない（課題解決演習）
・活動の課題を読み取り、対応策を考える（ワークショップ）
- 目 的**：
(1)仲間と一緒に一つの目標（年間目標：CORE）に向け活動する魅力と意義を確認し、秋学期に行う具体的な行動計画（アクションプラン）を作る
(2)自身の関心や強みに気づき、言語化する。秋学期に向けて個人目標を見直し、個人の行動計画を定める
(3)学生と地域がつながり活動することの意義や効果、現状を分析する

春の研修合宿



- 日 程：2025年3月10日(月)～11日(火)
場 所：関西学院大学 千刈キャンプ
加 者 数：34名（1年生20名、2年生12名、3年生1名、4年生1名）
内 容：
 - ・レクリエーション
 - ・来室者対応向上のためのワークショップ
 - ・学生COのこれからの活動について（ラベルワーク）
 - ・ボランティアコーディネーションについて目 的：
 - ・学生COの役割を改めて理解することでその意見を理解し、新年度の活動のモチベーションを高める

4. 来年度に向けて

2025年度学生コーディネーター 西宮上ヶ原・西宮聖和代表
法学部2年 江口 幸佑



2025年度学生コーディネーターの上ヶ原・聖和キャンパス代表を務めさせていただきます、法学部2年生の江口幸佑です。

2025年度の年間目標は「LINK」と設定しました。学生CO全員が協力して活動していくと共に、①学生CO自身が学び（Learn）、②他の関学大生や地域と関わり（Interact）、③関学大生をその人に合ったボランティアに導き（Navigate）、④学生CO自身が活動を楽しむ（Keep smiling）ということを重視して、企画やミーティングの際に全員が念頭に置いて活動します。

2025年度は企画実行委員に全員が加入し、学生COメンバーが関西学院大学のボランティア活性化のために実現したい企画ができる体制を構築しました。新企画を行う、既存の企画を大規模に展開して行うなど工夫を凝らして活動を進めていきます。

また、学生COメンバー同士で「本当にやりたいこと」を出し合いながら、よりよい団体運営をしています。関学大生にボランティアをより広められるよう、学生CO一同、お互いに協力し、高め合い、そして楽しんで活動していきます。

2025年度学生コーディネーター 神戸三田共同代表
生命環境2年 加藤 塔香



2025年度、学生コーディネーター神戸三田キャンパス共同代表を務めさせていただきます、生命環境学部2年の加藤塔香です。

昨年度の活動を通して、学生コーディネーターは誰もが挑戦でき、学生COメンバーが温かく応援してくれる団体であると感じました。この魅力を活かし今年度も、学年を超えて支え合えるチームを目指し、様々な活動に取り組みます。また、学生CO内にとどまらず、地域の方々との連携もより一層深めたいと考えています。具体的には、昨年度から部署として始動した三田地域連携部を継続し、学生CO以外の学生も巻き込んだ大規模なボランティアツアーの実施を目指します。また、自らも積極的にボランティアに参加し、活動の輪をさらに広げたいと考えています。

これらの取り組みを通して地域とのつながりを土台とし、学生COの活動目的である関西学院大学のボランティア活動の活性化へと繋げていきたいと思えます。力不足な点もありますが、仲間とともに挑戦し続けられる組織を目指し、責任を持って取り組んでまいります。

記錄事項



サンテレビ〔KG visit〕震災や社会課題に向き合うボランティアの「今」 2025 1.16



宮っ子 甲東 2025.3-4 月号 No.389

第389号

ふ る さ と 甲 東

令和 7 年 3 月 1 日 (2)

ともじき
まじり

JICA※交流会に参加

開発途上国でごみの減量や分別の促進に取り組んでいる9カ国からの研修生と甲東エココミュニティ会議との交流会が、昨年12月8日に開催され、関西学院大学エココミュニティチームも参加しました。



日本文化、折り紙で交流。「楽しかった!!」

は、たくさん
の国の人
と話がで
き、す
てきな機
会を得られ
て勉強にな
りました。
研修生の皆
さんは、ご
みの減量や
分別だけでなく、地域の自発
的なコミュニティ活動や学生
との連携にも、非常に興味を
持っているのが印象的でした。
今後の活動へのモチベーション
が上がる機会になりました。

エココミュニティチーム

伊藤 夏鈴
前畑 優月

※独立行政法人国際協力機構

古着リメイクで
クリスマスリース作り

「ついで場CO・KO」で昨年の12月21日に、甲東エココミュニティ会議(甲東エコ)と地域住民5人、関西学院大学の学生CO(コーディネート)6人、職員1人で交流会をしました。

関西学院大学の学生COは、エココミュニティチームを昨

年の秋から始動しました。「まず自分たちにできることは何か?」「活動をする中でどうやったら地域の人たちと共鳴し合うことができるか?」「そもそもエコとは何だろうか?」と手探り状態での進行でしたが、できることから着実に取り組みもうという意識の下、学年問わずメンバー全員で考えて話し合ってきました。そして、クリスマスが近いということのでリース作りになりました。



眠っていた服がXmasリースに

ールで作ったドーナツ型の土台に巻き付けます。そして、甲東エコの皆さんが用意したリボンやビーズ、花などで飾り付けをしました。個性豊かなかわいらしいリースを作ることができました。グルーブに分かれて作業していましたが、きれいなリボンの作り方や飾りの選び方を相談したりして、結果的に全員と話すことができました。



かわいいリースが完成♡

いらなくなったものを使っ
て新たなものを作り出す機会
は、今までになかったのだと
ても新鮮でした。古着はたく
さん持っているの、またリメ
イクしてみようと思いました。

エココミュニティチーム

山根 綾乃
松本 梓
辻村 心暖

さらに継続は力なり!

30周年「おはなしポケット」

樋ノ口小学校の子どもたち
に本の読み聞かせをしている
ボランティアグループ「おは
なしポケット」が、30周年を迎
えました。

おはなしポケットは、平成
6(1994)年に、子どもた
ちに本の読み聞かせをした
と、当時の谷口照校長と荻
野幹雄教頭から保護者に話
があり、有志が集まってス
タート。たくさんボランティア
の支えの下で、今日まで活
動を継続しています。

教室での読み聞かせ以外
にも、大市八幡神社夏祭り
での大型絵本の読み聞かせ
や、体育館を利用して演出
にも力を入れているクリ
スマス会の大
型紙芝居など、子どもたち
に本の世界を楽しんでもら
う活動に尽力しています。

大市八幡神社夏祭りの様子

「宮っ子」編集員が、クリスマス
おはなし会に密着取材!

休み時間になると、猛ダ
ッシュで体育館へ向かう子ども
たち。どれだけこの時間を楽し
みにしていたかが伝わって
きました。舞台上で行う大型
紙芝居の読み聞かせは、ボラ
ンティアによる迫真のセリフ付
き。物語の世界に引き込まれ
た子どもたちは静かに聞き入
り、時に笑い声が沸き起こる
など、存分に楽しんでいました。

▼紙芝居「ともだちくるかな」



▼手作りカードのプレゼント



迫力満点! 息の合ったボランティアの声色♪

おはなしポケットのボラ
ンティアの皆さん、30周年お
めでとございます。笑顔や心
に響く読み聞かせが、これか
ら子どもたちに届くことを
願っています。

宮っ子上ヶ原 2025.1-2 月号 No.368

(1) 第368号

う え が は ら

令和7年1月1日

今月の花の写真「蠟梅ーロウバイ」



上ヶ原版の問い合わせは上ヶ原市民館へ ☎53-7862

- | | |
|----|-----------------------------------|
| 1面 | 新年のあいさつ・追悼行事
大学生ボランティア |
| 2面 | うえがはら防災教室2024 |
| 3面 | うえみなフェス
小連体と中連体 |
| 4面 | 阪神・淡路大震災の教訓から
うえがはらinformation |

編集 上ヶ原コミュニティ委員会

7月号「復興特集2」は、市内や全国からのボランティアについて、8月号は、地域の助け合いや学生の力が支えになったこと、消防団の活動、感謝の思いが載っています。

上ヶ原地域の編集員は、避難所になった上ヶ原小学校の様子を記しています。震災3日目から関西学院大学のボランティア委員会から1日平均20人が来て、食事関係のことやごみ捨て、トイレの水の補給など、日常生活のさまざまなことで若い力が支えになりました。

阪神・淡路大震災から30年

『宮っ子』は、平成7年新年号を発行した後、3～5月号を休刊としました。6月号は全市版「阪神大震災復興特集」として発行。各地域の編集員は震災を記録し、住民に情報を伝えるために取材を続け、7月号は23地域版が加わり、8月号から全地域のページがそろいました。

謹んで新年のごあいさつを申し上げます

令和7年は巳年
災害などの災いから脱皮し
平穩無事に過ごせますよう
皆さまには佳き年になりますよう
お祈り申し上げます

地域を支える大学生ボランティア

平成7(1995)年1月17日に起きた阪神・淡路大震災をきっかけに



関西学院大学のボランティア

大学生のボランティア委員会は平成7年4月に解散となり、学生と教員、職員が一緒になって運営する「関西学院ヒューマンサービスセンター」が新たに発足しました。学童保育ボランティア(ひまわり)や被災地への支援など、関西学院大学のボランティアセンターとして活動しました。

平成28年4月からは、ボランティア活動の一元化と大学による活動支援の体制整備により、「ボランティア活動支援センター」を開設。大学内・外に向けたボランティア活動に関する相談窓口として、「ヒューマン・サービス支援室」が設置されました。西宮上ヶ原キャンパス正門入って左の建物の1階にある支援室には、専任ボランティアコーディネーターと学生コーディネーターが、ボランティアをしたい学生の相談に乗っています。

本年は、人と人の交流をテーマに、つながる地域コミュニティを目指した活動を展開していく所存です。

『宮っ子』の編集 しましても、地域の「かけはし」として、温かいふれあいを取材してまいります。

皆さまに、ご支援ご協力 ど、どうぞよろしく
お願い申し上げます。

上ヶ原コミュニティ委員会
委員長 増山良

ボランティアの一例

地域団体での活動
夏祭り・子ども食堂・カフェ
ちびっこ広場 清掃活動など
災害支援
能登半島地震では、七尾市に4回行き、仮設住宅を訪問して交流イベントを企画



専任ボランティアコーディネーター 岡秀和さん(後列左)と音川真凜さん(前列左)
学生コーディネーターの皆さん
(西宮上ヶ原、西宮聖和、神戸三田キャンパスで合わせて約100人)

「ヒューマン・サービス支援室」

追悼行事のお知らせ

阪神・淡路大震災30年の集い

◆ 1月11日(土) 10時～11時30分

◆ 地すべり資料館(無料)

◆ 出演 関西学院
1ツホール クワイア
ハンドベルクワイア
聖歌隊

毎日新聞 2025.3.5 発行



石川県七尾市で被災者の孤立を防ぐ場づくりに取り組んだことを報告する学生たち
—西宮市の関西学院大で

登壇 地震 1.1

活動の工夫や意義語る
関西学院大生ら ボランティア報告会

被災者の孤立を防ぐ交流の場づくりを目指した。初回は茶話会を開催したが、男性の参加の少なさが課題に。ゲームやうちわ作りなど男性も楽しめる工夫を重ね、3回目に将棋で盛り上がることをできたという。教育学部3年の増田優希さんは「コミュニケーションの大切さを一番実感した」と振り返った。人間福祉学部2年の西本和芳さんは、地域のボランティア活動や避難訓練にも参加するようになったという。活動をサポートした

西宮市の関西学院大で4日、能登半島地震で被災した石川県七尾市でボランティアをした学生たちの報告会が開かれた。被災者との会話のきっかけ作りを工夫して交流を深めた経緯を発表し、ボランティアに参加する意義も語り合った。

学部も学年もさまざまな延べ72人が2024年5月〜25年2月、計5回現地を訪れた。

紙面編集 中谷 奈史

認定NPO法人「日本災害救援ボランティアネットワーク」の寺本弘伸常務理事は「学生が行くと高齢の人や子どもがすぐ喜ぶ。一緒に活動することで被災地の教訓を地元へ返していくことにもなる」と意義を語った。

【稲田佳代】

輪投げや昼食会
中島の3世代交流
七尾・豊川分館

七尾市中島地区コミュニティセンター・豊川分館の3世代交流イベント（北國新聞社後援）は16日、同分館で5年ぶりに開かれ、子どもから高齢者まで約90人が輪投げ大会や昼食会などで親睦を深めた。



災害ボランティアで訪れた関西学院大生とともに、豊川地区の魅力などを語り合う会も実施した。

同市湯川町の旧よつば保育園では、市内のママ友グループが輪島塗食器を使った食事会「まいにち御膳の会」を開き、親子ら約30人がイワシの香ばし焼きなどを味わった。

輪投げを楽しむ来場者
七尾市中島地区コミュニティセンター・豊川分館

北國新聞（朝刊 2025.2）

2024年度 「高等教育推進センターBest Contribution賞」 ボランティア活動支援センター／ヒューマン・サービス支援室へ授与

高等教育推進センターが、本学の教育力向上に貢献した個人・団体を顕彰するBest Contribution賞を、2024年度はボランティア活動支援センター／ヒューマン・サービス支援室に授与し、クリスタルトロフィーを贈呈しました。

■ ボランティア活動支援センター／ヒューマン・サービス支援室の概要

関西学院大学ボランティア活動支援センター／ヒューマン・サービス支援室は、1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災を契機に設立されました。震災直後に救援ボランティア委員会が発足し、学生や教職員が協力して救援活動を行いました。この活動が基盤となり、同年4月に関西学院ヒューマンサービスセンター（HSC）が正式に設立されました。

学生にボランティア情報を提供し、活動の紹介やサポートを行っています。災害支援や地域貢献活動など、多岐にわたるボランティア活動を推進し、学生の社会貢献意識を高める役割を担っています。

■ 顕彰のポイント

ボランティア活動支援センター／ヒューマン・サービス支援室の諸活動が、本学のスクールモットーであるMastery for Serviceを組織的に体現しており、またそれらが学生の自主性に基づく形で組織化・展開されている点です。また昨今の高等教育では、正課のみならず正課外教育とのバランスの取れた総合的な学習環境が求められており、ボランティア活動支援センターの諸活動は本学の学習環境の質の向上に貢献している点で高く評価されました。

■ 具体的な取り組み

(1) 学外への学生派遣を通じた教育活動の充実

毎年学外でのボランティア活動を実施し、本学学生がキャンパスを飛び越えて被災地等で学ぶことのできる場を提供しています。例えば、2024年1月1日に発生した能登半島地震の被害者を支援するために、これまで計4回の現地でのボランティアを実施しています。2025年2月14日からは第5回ボランティア活動を実施予定で、これらは1995年の阪神淡路大震災発生以降、途切れることなく継続的に行われており、多くの学生たちにとって社会参画及び学びの場として機能しています。

受賞コメント

ボランティア活動支援センター 今津直子センター長コメント
名誉な賞を賜り、光栄です。ヒューマン・サービス支援室の活動に加えて、専従ボランティアコーディネーターや学生コーディネーターを含む組織運営や、学生の主体性や自律性を重視した支援に対しても評価していただき非常に嬉しく思います。これを機にさらに多くの方々に関心を持っていただきたいと思います。



中央左から順に、
今津直子センター長、関高寛ヒューマン・サービス支援室長、
岡秀和専従ボランティアコーディネーター

(2) ボランティア活動を通じた学びを深めるための組織体制の構築

ヒューマン・サービス支援室では、単に教職員による室長・副室長等の人員配置を行うだけでなく、専従のボランティアコーディネーターを3名雇用し、様々な情報提供やボランティア活動の運営を行っています。また、学生コーディネーターの制度を設計し、学生が主体的に自分たちのボランティア活動を紹介・発信しイベントを行うなど、積極的に活動を行っている。春には団体紹介冊子を発行、ボランティアEXPOに参加し参加者募集を行い、夏にボランティアツアーを実施し、冬にはボランティアWeekを開催するなど、普及活動にも力を入れています。これらの活動を支える土台として、教職員のみならず学生たちが自分たちの活動を自律的にコーディネートする組織体制が適切に構築されています。



ボランティア活動支援センター規程

第1条 関西学院大学に関西学院大学ボランティア活動支援センター（以下「支援センター」という）を置く。

（目的）

第2条 支援センターは、ボランティア活動の支援に関する基本方針を策定する。

（業務）

第3条 支援センターは、前条の目的を達成するため、次の業務を行う。

- 1 本学のボランティア活動に関する施策の企画・立案
- 2 本学のボランティア活動に関する全学的方針の立案及びその方策の推進
- 3 その他、前条の目的を達成するための業務
- 2 前項の事業を推進するために、支援センターにヒューマン・サービス支援室を置く。

（構成）

第4条 支援センターに次の構成員を置く。

- 1 センター長
- 2 センター副長
- 3 センター委員 3名（西宮上ヶ原、西宮聖和、神戸三田各キャンパスから1名）

（センター長）

第5条 センター長は支援センターを代表し、第3条に規定する事項について統括する。

- 2 センター長は副学長の中から、学長が任命する。
- 3 センター長の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。なお、センター長が任期の途中で退任したとき、新任者の任期は前任者の任期の残存期間とする。

（センター副長）

第6条 センター副長はセンター長を補佐する。センター長に事故あるとき、又はセンター長が欠けたときは、その職務を代行する。

- 2 センター副長は本学専任教員の中からセンター長が推薦し、学長が任命する。
- 3 センター副長の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。なお、センター副長が任期の途中で退任したとき、新任者の任期は前任者の任期の残存期間とする。

（センター委員）

第7条 センター委員はセンター長及びセンター副長を補佐する。

- 2 センター委員は本学専任教員の中からセンター長が推薦し、学長が任命する。
- 3 センター委員の任期は1年とする。ただし、再任

を妨げない。なお、センター委員が任期の途中で退任したとき、新任者の任期は前任者の任期の残存期間とする。

（センター会議）

第8条 ボランティア活動の支援に関する基本方針を定め、それに基づいて、ボランティア活動を評価し管理するため、センター会議を置く。

2 センター会議は次の委員をもって構成する。

- 1 センター長
- 2 センター副長
- 3 センター委員
- 4 大学宗教主事
- 5 学長補佐 1名
- 6 学生活動支援機構長補佐 1名
- 7 大学課長
- 8 ミッション推進課長
- 9 学長が必要と認めた者 若干名

3 センター会議は、副学長が招集し、議長となる。

4 センター会議が必要と認めたときは、センター会議の議を経てセンター会議委員以外の者を出席させることができる。

第9条 センター会議は、次の事項を協議する。

- 1 本学のボランティア活動に関する施策の企画・立案
- 2 本学のボランティア活動に関する全学的方針の立案及びその方策の推進
- 3 支援センター予算・決算に関する事項
- 4 支援センター諸規程に関する事項
- 5 ヒューマン・サービス支援室の人事に関する事項

（事務）

第10条 センターの事務は、吉岡記念館事務室が行う。

（規程の改廃）

第11条 この規程の改廃は、センター会議の議を経て大学評議会で決定する。

附 則

- 1 この規程は、2016年（平成28年）4月1日から施行する。
- 2 この規程は、2018年（平成30年）4月1日から施行する。
- 3 この規程は、2024年（令和6年）4月1日から改正施行する。

関西学院大学ボランティア活動支援センター規程2024年（令和6年）6月12日 理事会承認

ヒューマン・サービス支援室規程

第1条 この規程は、関西学院大学ボランティア活動支援センター（以下「支援センター」という）規程第3条第2項に基づき、ヒューマン・サービス支援室（以下「支援室」という）について定める。

（目的）

第2条 支援室は、ボランティア活動の支援に関する基本方針に基づき、学生等によるボランティア活動を支援し促進することを目的とする。

（業務）

第3条 支援室は、前条の目的を達成するため、次の業務を行う。

- 1 ボランティア活動への支援・助言
- 2 ボランティア活動に関する情報収集と提供
- 3 ボランティア活動への啓発
- 4 ボランティア活動に関する評価及びそれに伴う公表
- 5 ボランティア活動協議会の開催
- 6 その他、前条の目的を達成するための業務

（構成）

第4条 支援室に次の構成員を置く。

- 1 室長
- 2 副室長 3名
- 3 ボランティアコーディネータ
- 2 室長は、支援センター副長が兼ねる
- 3 副室長は、支援センター委員が兼ねる

（室長）

第5条 室長は支援室を代表し、第3条に規定する事項について統括する。

- 2 室長は本学専任教員の中から支援センター長が推薦し、学長が任命する。
- 3 室長の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。なお、室長が任期の途中で退任したとき、新任者の任期は前任者の任期の残存期間とする。

（副室長）

第6条 副室長は室長を補佐する。室長に事故あるとき、又は室長が欠けたときは、その職務を代行する。

- 2 副室長はボランティアに関する知識を有する本学専任教員とし、支援室長が推薦し、学長が任命する。
- 3 副室長の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。なお、副室長が任期の途中で退任したとき、新任者の任期は前任者の任期の残存期間とする。

（ボランティアコーディネータ）

第7条 ボランティアの全学的な推進と調整を行うため、支援室にボランティアコーディネータを置く。

- 2 ボランティアコーディネータは室長が推薦した者を、支援センター長が任命・委嘱する。
- 3 ボランティアコーディネータの任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。なお、ボランティアコーディネータが任期の途中で退任したとき、新任者の任期は前任者の任期の残存期間とする。
- 4 ボランティアコーディネータは学生コーディネータを助言指導する。

（学生コーディネータ）

第8条 ボランティア活動支援センター長はヒューマン・サービス支援室の業務の遂行にあたって、参加・協力する学生に対し学生コーディネータを委嘱することができる。

- 2 学生コーディネータはヒューマン・サービス支援室と協働し、ボランティア紹介とボランティア啓発活動を実施する。

（支援室運営委員会）

第9条 支援室の円滑な運営を図るため、支援室運営委員会（以下「運営委員会」という）を置く。

- 2 運営委員会は次の委員をもって講成する。

- 1 室長
- 2 副室長
- 3 学長補佐 1名
- 4 学生活動支援機構長補佐 1名
- 5 大学課長
- 6 ミッション推進課長

- 3 運営委員会は、室長が招集し、議長となる。

- 4 運営委員会が必要と認めたときは、運営委員会の議を経て運営委員以外の者を出席させることができる。

第10条 運営委員会は、次の事項を企画・立案し、支援センター会議に提案する。

- 1 ボランティア活動への支援・助言
- 2 ボランティア活動に関する情報収集と提供
- 3 ボランティア活動への啓発
- 4 ボランティア活動に関する評価及びそれに伴う公表
- 5 ボランティア活動協議会の開催
- 6 その他、前条の目的を達成するための業務

（協議会）

第11条 室長は、関西学院大学で活動するボランティア団体の交流・協働を促進するため、室長、副室長による協議会を置き、開催する。

（規程の改廃）

第12条 支援室の事務は、吉岡記念館事務室が行う。

（規程の改廃）

第13条 この規程の改廃は、運営委員会の議を経て大学評議会で決定する。

附 則

- 1 この規程は、2016年（平成28年）4月1日から施行する。
- 2 この規程は、2018年（平成30年）4月1日から施行する。
- 3 この規程は、2019年（平成31年）4月1日から改正施行する。
- 4 この規程は、2024年（令和6年）4月1日から改正施行する。

了解事項

ボランティアコーディネータは期限付契約職員とする。

ボランティア活動支援センター名簿

ボランティア活動支援センター長 今津屋 直子（教育学部教授・副学長）	ボランティアコーディネーター 岡 秀和
ボランティア活動支援センター副長 関 嘉寛（社会学部教授）	沖本 祐基 音川 真凜
ボランティア活動支援センター委員 川島 恵美（人間福祉学部教授） 岩坂 二規（教育学部准教授） 照本 清峰（建築学部教授）	

ヒューマン・サービス支援室名簿

ヒューマン・サービス支援室長 関 嘉寛（社会学部教授）	ボランティアコーディネーター 岡 秀和
ヒューマン・サービス支援室副室長 川島 恵美（人間福祉学部教授） 岩坂 二規（教育学部准教授） 照本 清峰（建築学部教授）	沖本 祐基 音川 真凜

2024年度 学生コーディネーター代表部名簿

〈西宮上ヶ原キャンパス〉 代 表：佐藤 日和（社会学部3年） 副代表：中野 涼香（社会学部3年） 熊谷 朋也（法学部3年）	〈神戸三田キャンパス〉 共同代表：小鹿 陽生（理学部3年） 潮見 凜（総合政策学部2年）
------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------

2024 年度
関西学院大学ボランティア活動支援センター
ヒューマン・サービス支援室 活動報告書
2025 年 12 月 発行

関西学院大学ボランティア活動支援センター
ヒューマン・サービス支援室
〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町 1-155
TEL: 0798-54-6061 FAX: 0798-54-6161
E-mail: kg.hssso.info@kwansei.ac.jp
URL: https://www.kwansei.ac.jp/c_volunteer/